

令和2年度 後期学校関係者評価書

令和3年1月14日（木）

南アルプス市立白根源小学校関係者評価委員会

記載責任者 教頭 清水浩雄

【学校関係者評価委員会】

1 実施日：令和3年1月14日（木） 16：00～

2 会 場：南アルプス市立白根源小学校 会議室

3 学校関係者評価委員

学校関係者評価委員		
前源地区連合自治会会長 深澤 秀春	主任児童委員 有野 守代	元PTA会長 伊東 昭公
元PTA役員 植松理恵子	元PTA役員 塩谷 恭子	源地区連合自治会会長 深澤 一仁
源地区育成会会長 小澤 順司	PTA会長 清水 秀美	

4 次 第

進行・記録：教務主任（米山）

1 はじめのことば	教務主任（米山）
2 学校長あいさつ	校長（河村）
3 学校評価結果及び概要説明	
①自己評価（教職員）結果	教頭（清水）
②児童アンケート結果	教頭（清水）
③保護者アンケート結果	教頭（清水）
④質疑応答	教頭（清水）
4 意見交換（参加者からの提言等）	座長：教頭（清水）
5 おわりのことば	教務主任（米山）

5 協議内容・意見

(1)令和2年度 後期学校関係者評価書より

I 自己評価

評価は、前期評価同様

Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない である。
集計結果からは、全ての項目に対して、肯定的な意見が大半を占めている。学校教育目標・グランドデザインを意識して目標に近づけるように取り組むことができたと考える。

以下A回答に焦点を当て考察する。

【A回答が80%以上の項目】

- 1「学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。」
 - 3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」
 - 4「他の職員と相互理解・信頼関係を深め、教育活動に当たっている。」
 - 6「教育公務員とし危機管理（防災・防犯・個人情報・網紀保持）を意識し、教育活動等に当たっている。」
 - 7「チーム源として、職員が共通理解のもと指導に努めている。」
 - 8「適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。」
 - 9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」
 - 10「かかわりあって共に学び、高めあう」授業づくりに努めている。（思考力・判断力・表現力、主体的学習態度、学習意欲、言語活動、主体的・対話的で深い学びの視点）」
- の8項目であった。

【前期から伸びのあった項目】

- 1「学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。」77⇒82(5) 数字は%()は差
- 3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」77⇒88(11)
- 4「他の職員と相互理解・信頼関係を深め、教育活動に当たっている。」82⇒94(12)
- 7「チーム源として、職員が共通理解のもと指導に努めている。」82⇒100(18)
- 9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」82⇒88(6)
- 10「かかわりあって共に学び、高めあう」授業づくりに努めている。（思考力・判断力・表現力、主体的学習態度、学習意欲、言語活動、主体的・対話的で深い学びの視点）」52⇒94(42)
- 11「家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。」70⇒76(6)
- 13「生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。」65⇒71(6)

以上は、コロナ禍に対応し、児童の心身への対策、学校施設の消毒等衛生管理面で今までにない対応、教職員が児童に寄り添い、一人一人の実態に沿った対応を常に考えて指導に当たっていることの表れと考える。教職員がチーム源として一丸となって取り組んでいる。

学習指導面でも、常に教育課程をチェックした進捗確認と、校内研究を中心とした理論研究や授業での実践、授業後の研究を重ねてきた成果が表れていると言える。3学期も、やまなしスタンダードのもと、コロナ禍においてもできる形で、学び合いの学習に取り組み、さらに自分の考えを深め広げさせるような、「わかる授業、楽しい授業づくり」を進めていきたい。

【前期から下がった項目】

- 12「規範意識を育むための指導を行い、全校児童が相互に協力し合える風土づくりを心掛けている。」70⇒59(11)
- 14「いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合は、見逃さず適切に対処している」88⇒77(11)
- 15「保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている」94⇒77(17)

これはあえてA回答に絞っての結果であるが、A+Bの肯定的回答は下がっていない。15は、今年は特に、家庭訪問・授業参観等、平常通りに進めることができなかつたことが影響している。12・14も学級活動で対面活動の制約の影響を反映していると考えられる。上記8・9・10の伸びているものを手掛かりに、進んでいきたい。

II 児童アンケート結果

① 後期児童アンケート 全体評価

前期よりもAの回答割合があがった項目は

- 1「学校が 楽しいですか。」
- 5「家で家庭学習（自主学習 ・ 宿題）をしていますか。」
- 6「クラスになかよく遊ぶ友だちがいますか。」
- 8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」
- 9「先生はこまったときに 話を聞いてくれたり、きちんと対応してくれますか。」
- 10「先生はやってよいこと・悪いことをしっかり教えてくれますか。」
- 11「先生はがんばったことをみとめてくれますか。」
- 14「地域の人と 出会ったら あいさつを していますか。」
- 15「朝ごはんを食べて学校にきますか。」

であった。仲良く遊ぶ友達、困ったときに相談できる友達・教師、頑張ったことが教師に認められる等のことが、学校が楽しいことにつながっていると考えられる。家庭学習をしているA回答の伸びもうれしいことである。反面、C+Dの否定的回答が多い項目を見てみると、

- 3「授業中に質問や意見をいいますか。」
 - 7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
 - 17「家の人とささい（地震・台風・火事など）が起こったときのことを話していますか。」
- がみられた。

授業中の発言は、校内研究とも連動させて、粘り強く取り組んでいきたい。他学年との遊びは、コロナ禍で難しい面があるが、可能な範囲で、児童会活動に期待したい。また、17の災害については、避難訓練時に、家でも話題になるよう指導していきたい。

- 2「学校の授業がわかりますか。」
- 3「授業中に質問や意見をいいますか。」
- 4「学校の 決まりや 約束が 守れていますか。」

昨年度も同様の傾向であった。今年度は特に、年度初めの臨時休業による日数減に伴い、学習内容に落ちのないよう進めてきた。例年に比べ、進度に余裕を持たせられなかった面があり、これも影響していると考えられる。3学期に、重要項目の復習に留意したい。

次に、「1 学校が 楽しいですか。」の項目の、AB回答群とCD回答群を比較してみた。
以下の項目でA回答が、AB群では多く、CD群では少ない特徴が見られた。

- 6「クラスになかよく遊ぶ友だちがいますか。」
- 7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
- 8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」
- 9「先生はこまったときに話を聞いてくれたり、きちんと対応してくれますか。」
- 16「家の人と学校でのことを話していますか。」

仲良く遊ぶ友達、困ったときに相談できる友達・教師、家で学校のことを話せるような、家庭との連携が重要である。このことを踏まえ、質問1のCD回答群に、より細かい対応を実行していかなければならない。

次に、「2 学校の 授業が わかりますか。」の項目の、AB回答群とCD回答群を比較してみた。
以下の項目でA回答が、AB群では多く、CD群では少ない特徴が見られた。

- 5「家で 家庭学習（自主学習 ・ 宿題）を していますか。」
- 7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
- 8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」
- 15「朝ごはんを 食べて 学校に きますか。」

まず、自分の意見をワークシート等を書くことではっきりさせ、出させやすくする指導の工夫。困った時に話せる友達ができるような学級づくりが大切である。最初にふれたとおり、全体として家庭学習のA回答は伸びている。ここで注目した解答群の子供たちには、より丁寧な学習指導が求められる。

Ⅲ 保護者アンケート結果

① 保護者アンケート全体評価

保護者アンケート結果からはほぼ肯定的な結果が得られた。13 (82.6%) 18 (82.6%) 20 (83.5%) を除き全て85%以上の肯定的な意見で占められている。

肯定的ではない(C+D)意見が10%以上を占める項目を挙げてみると、

- 11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」11.8%
 - 12「子どもは、家庭学習(自主学習、宿題等)によく取り組んでいる。」13.7%
 - 13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」16.7%
 - 14「学校開放日や授業参観、学校行事に積極的に参加している。」16.7%
 - 16「家庭学習(自主学習・宿題)の取組に、関わっている。」24.5%
 - 18「ゲームをする時間、テレビを見る時間、外出時などにルールを決めて取り組んでいる。」12.7%
 - 20「子どもの様子の変化に注意を払い、すぐに先生に相談している。」15.7%
- であった。

11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」
12「子どもは、家庭学習(自主学習、宿題等)によく取り組んでいる。」
13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」
については、児童アンケートにも同じ項目があり、児童の方では、「学校の様子をよく話す」は82⇒87と5%前期より向上している。「家庭学習」「地域でもよくあいさつ」は児童の肯定的回答が90%を超えている。

家庭学習においては、項目16「家庭学習(自主学習・宿題)の取組に、関わっている。」CD回答14%への対応として、学校から家庭に、家庭学習のヒント、手立てなど、伝える情報を工夫し、家庭学習に、よりスムーズにかかわってもらえるよう働きかけていきたい。

また、14「学校開放日や授業参観、学校行事」はコロナ禍で制約のある中、感染予防の協力をいただきながら、可能な限り参観していただく機会を設けたが、例年通りとはいかなかったことを反映していると考えられる。しかし、事後アンケートでは、学校の姿勢を評価する回答を多くいただいた。

(2) 意見交換(○～参加者からの質問・提言、※～学校返答)

○コロナ禍の中大変ご苦勞、努力していただきありがたい。今後もまだ見通しが立たず、負担がかかると思うが、今年を基に対応を発展させ、教育向上に努めていただきたい。

※学習・心身の健康両面で、新感染症感染防止対策に気持ちを引き締めて取り組んでいる。コロナ禍でいろいろままならない状況があり、歯がゆいが、感染防止対策をとり、可能な限り学校を開放し、参観の機会を設けてきた。保護者、地域の皆様のご理解ご協力をいただければ、ありがたい。

○アンケートは記名式か。学力状況調査の結果はどうか。

※記名式のため、必要な対応が取れるように努めている。学力は市や県と同様の傾向である。分析を基にした県の学習指導資料を活用している。

○放課後学習や市民会議のあいさつ運動でかかわってきた。地域が学校にかかわる事で見守る土壌ができる。見守りを地域に呼び掛けてもらいたい。学校だよりの回覧も学校の様子がわかる。続けてほしい。

※地域への情報発信に努めていきたい。

○ハ朔祭り、敬老会、文化祭等中止になってしまった。コロナ禍が収束し、また学校と地域のかかわる行事が例年通り行えるようになれば良い。

○学校開放日を行ってもらいよかった。4年の二分の一成人式を参観できよかった。学校や子供の様子を見ることができうれしいし、子供も親が学校に来るのを楽しみにしている。引き続きこのような機会を確保してほしい。

※学校スケールを生かしたい。家庭・地域と今後も絶えず情報交換し、連携しながら、一緒に子どもを育てていくよう、努力していく。

まとめ

I 自己評価から

今年度は、コロナ禍の影響で、5月までの臨時休業による年間日数の減少への対応、児童の心身の健康への対応が重要課題であった。児童に寄り添うこととともに、時数確保の面では、夏休みの1週間短縮、行事の縮小、必修事項を確保しつつ教科間で時数調整等により、2学期終了までに学習指導要領で定められている内容は指導することができている。教職員がチーム源として一丸となって取り組んできた。自己評価にもこのことが反映されている。

今後も新型コロナウイルス感染症感染防止対策に気持ちを引き締めて取り組み、専門性の研鑽と、きめ細かい指導に当たっていく。学校運営に関する方針や子どもの情報等の共有を徹底する。

II 児童アンケートから

- ・より良い児童理解のもと、ぶれない指導で、子どもの自己有用感を意識して高める指導をする。
 - ・家での会話のきっかけとなるよう、学級だよりなどで学習や活動の内容を継続して家庭に伝える。
 - ・「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくり、できたことを認め自己有用感を高め強化する指導を推し進める。
 - ・児童会縦割り活動、学習発表の他学年との交流の機会を大切にする。
- などにより、子どもの否定的な面に対して、丁寧で、きめ細やかな対応を進めていく。

III 保護者アンケートから

- ・感染症予防の細心の注意を払いながら、保護者、地域に開かれた、信頼される学校づくりに努める。
- ・基本的な生活習慣づくりや、家庭学習の充実における家庭との連携のため、家庭・地域と今後も絶えず情報交換し、連携しながら、一緒に子どもを育てていくよう、努力していく。
- ・積極的な情報発信を行う。